



さゆりっ子

No.9

文責 畠林一成

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

～すいせん組の保育公開から～

園を修了するまでに、子どもたちにどういう資質・能力を身に付けてほしいのかを明確にしたものが「育ってほしい10の姿」です。「できる・できない」という到達目標ではなく、保育士、小学校の先生、保護者がその子の伸びてきている姿を共有することで、幼児から学校教育への接続、その後の指導がスムーズにその子に応じたものになっていけることを目的としています。

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1 健康な心と体 | 6 思考力の芽生え |
| 2 自立心 | 7 自然との関わり・生命尊重 |
| 3 協同性 | 8 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |
| 4 道徳性・規範意識の芽生え | 9 言葉による伝え合い |
| 5 社会生活との関わり | 10 豊かな感性と表現 |

私たちが指導を考える時、振り返る時、「10の姿」を意識していますが、先日行われたすいせん組の保育公開でも、「10の姿」から子どもの確かな成長を見ることができました。



「クリスマス発表に向けて話し合おう」

クリスマスに合わせて「年少、年中さんに楽しんでもらえる企画」の準備を進めてきていた子どもたち。授業が始まる前からうきうきした表情を見せていました。

クリスマスについて調べたことをクイズにしよう、絵本を読み聞かせようとグループに分かれて話し合いに、作業に取りかかりました。

「サンタさんはほんとうにいるの？」グループ

事前に調べた自分たちの答えは「ほんとうにいる。

さむいくににいる。ふいんらんど」。画用紙に問題を書きながら、選択肢を2つにするか、3つにするかが話題になってきました。

「①さんたさんはいる。 ②さんたさんはいない。」を書いてからの場面です。

選択肢の③はどうするか？

(Nさんがリード役になる場面)

Rさん： いらぬいよぬ。

Mさん： いる？

Sさん： 思いつかぬかつたら… (いらぬい)

Rさん： いやだ、いやだ。絶対考えぬい。

先生→Hさん： どう？ 投げかけて「いらぬい？」にうぬざく。

一見、「いる、いない」を何気に口にしていただけのように見えますが、「10の姿」の「6 思考力の芽生え」の観点から考えてみました。

友だちの様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをより良いものにするようになる。

グループの会話の中で

Rさんの「いないよね。」に対して、思わず「いる？」とみんなに問いかけるように話し出したMさんには、(自分でもいないと思っているけど) 考えてみようよ。と自分の気持ちを確かめ、考え直したいという気持ちの表れであるように思います。

当然いないと思っていたSさんも「思いつかなかったら…(いない)」と「③があるとしたら、どんな言葉がいいか

な？」と揺さぶられているように思います。

冒頭でも書きましたが、「10の姿」は到達目標ではありません。その姿につながっていく子どもの姿を私たちが気づいていってあげることが大切になってきます。

また別の場面での、「8 数量や図形。標識や文字などへの関心・感覚」の観点では

文字などに親しむ経験を重ねたり、役割に気づいたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。



始めは「おれ、書けねえ。」と言っていた子たちでしたが、いざ書き始めると鉛筆を握るのが楽しくて仕方がないと思えるくらいに積極的に取り組んでいました。とても素敵な姿でした。

《さっそくドキュメンテーションでも》

先日、職員会で話題を提供すると、さっそくドキュメンテーションにも取り入れていました。

室内遊びの時間に廃材遊びでEさんが”トントんずもう”を作った。それをMさんとRさんが貸してもらい、2人で何度も遊ぶ姿があった。Eさんのアイデアが詰まった楽しいゲームに触れ、他の友だちにとっても、新しい考えを生み出すきっかけになったのかなと感じる。また、Eさんのイメージを膨らませて夢中になって作る力が育っていると感じた。MさんとRさんには「思考力の芽生え」、Eさんには「豊かな感性と表現」が伸びてきています。



この「10の姿」については、これからも保護者のみなさんと一緒にも理解を深めていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

今年もたいへんお世話になりました。
家族そろってよいお年をお迎えください。

